1. 令和6年7月～9月期の景気動向

今期のDI平均値は△28.6ポイント。卸売業は22ポイント、小売業は2ポイント上がったが、製造業は4ポイント、サービス業は7ポイント下がり、建設業は横ばい。前期の4～6月の△31.2ポイントから2.6ポイントプラスとなった。

業種＼項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 44 (△ 38)	△ 38 (△ 50)	△ 37 (△ 33)	△ 39 (△ 32)	△ 33 (△ 33)	△ 22 (△ 25)	△ 47 (△ 50)	△ 29 (△ 28)	△ 50 (△ 11)	△ 28 (12)
採算		△ 44 (△ 44)	△ 44 (△ 50)	△ 27 (△ 45)	△ 39 (△ 37)	0 (△ 44)	0 (△ 13)	△ 40 (△ 30)	△ 38 (△ 28)	△ 41 (△ 29)	△ 31 (△ 13)
資金繰り		0 (△ 13)	△ 19 (△ 6)	△ 20 (△ 28)	△ 20 (△ 24)	0 (△ 33)	0 (△ 29)	△ 31 (△ 38)	△ 38 (△ 31)	△ 17 (△ 11)	△ 28 (0)
業況		△ 38 (△ 38)	△ 38 (△ 33)	△ 38 (△ 34)	△ 26 (△ 37)	0 (△ 22)	△ 22 (0)	△ 36 (△ 38)	△ 26 (△ 34)	△ 31 (△ 24)	△ 27 (△ 12)
経営上の当面する問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		利用者ニーズの変化への対応	
	2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		需要の停滞		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
	3位	材料価格の上昇		製品ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加		仕入単価の上昇		需要の停滞	
業種別コメント		民間・官公需要の停滞により、売上高は6ポイントマイナスとなった。原材料価格の上昇は継続しているものの、価格転嫁が順調に進み採算・業況は横ばいとなった。資金繰りは金融機関の柔軟な対応もあり13ポイントプラスとなった。来期の見通しは年末に向け、公共工事等の受注から売上高は回復が期待されるものの、資金繰りの悪化が懸念される。		需要の停滞により、売上高・業況は4ポイントマイナスとなった。原材料価格の上昇も続いているが価格転嫁が順調に進み、採算は18ポイントプラスとなり、資金繰りは採算の回復に伴い、8ポイントプラスとなった。来期の見通しは資金繰り・業況は回復が期待されているが、売上高・採算は厳しい状況が懸念される。		仕入単価の更なる上昇、需要の停滞により売上高は横ばいとなった。流通コストは増加傾向にあるが価格転嫁により、採算は44ポイント、資金繰りは33ポイント、業況は22ポイントプラスになった。来期の見通しは年末需要の期待から売上高・採算・資金繰りで回復が期待されているものの、仕入単価の上昇が続くことが予想され業況は悪化が懸念される。		消費者の購買意欲は低迷しているものの、売上高は3ポイント、資金繰りは7ポイント、業況は2ポイントプラスとなった。度重なる仕入単価の上昇により採算は10ポイントマイナスとなった。来期の見通しは、更なる仕入単価の上昇も予想され、売上高・採算・資金繰りは厳しい状況が予想されるが、年末需要の期待から業況は回復が期待される。		物価高による消費者の購買意欲の低下やニーズの変化への対応の遅れ、光熱費等のコスト増加により、売上高は39ポイント、採算は12ポイント、資金繰りは6ポイント、業況は7ポイントと全項目でマイナスとなった。来期の見通しは更なる物価高騰が予想され、年末需要の期待も薄く、全項目でマイナスとなり、厳しい状況が懸念される。	



とくに好調 (50≦DI)　好調 (25≦DI<50)　まあまあ (0≦DI<25)　不振 (△25≦DI<0)　きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD・I値